○インスペクターからのコメント（69回）

工事を中途半端に中断している状態が一番良くないと思います。完成後もこのような施工ワーキングの活動を継続していくこと、将来も緑地のために、住民の方と一緒になってすすめていくという姿勢を示すことが、今後の展開を図るために必要だと思います。

岡村
ｲﾝｽﾍﾟｸﾀｰ

自然というのは1年2年では結果は出ません。ホタルの調査も10年続けてきたからその経過がわかるのです。そういうねばり強い力が必要で、それを続けていくということが重要ですね。これからも先が長くなりますが、みんなで考えながら行動していかなければいけませんね。

大竹
ｲﾝｽﾍﾟｸﾀｰ

今日、ホタルがシェルターの上でも観測できたという報告を聞いて、我々の活動が生態系の保全に役立っているのだとあらためて感じました。今後も、整備後では間に合わない課題がまだまだでてくると思うので、そういったことにできるだけ気づいて議論していきましょう。

藤田
インスペクター

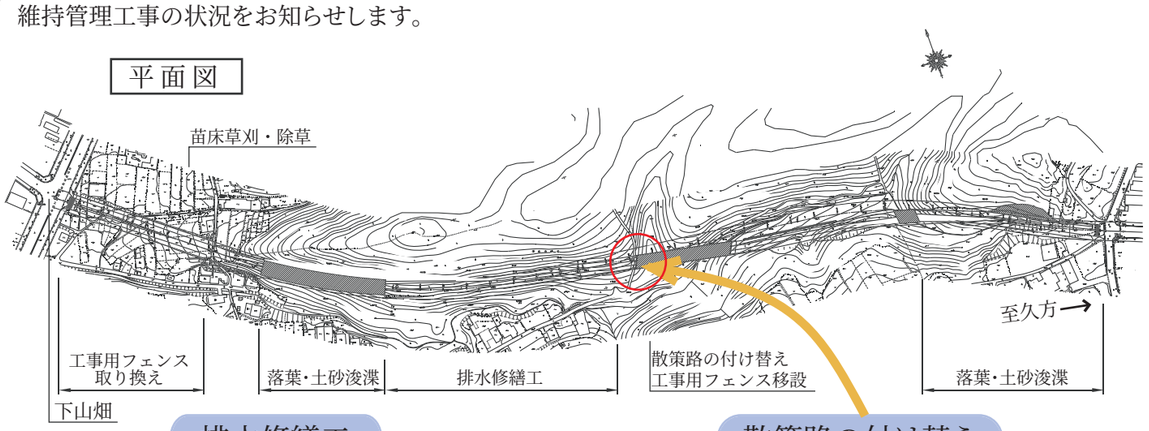
工事が止まっている期間に相生山の森がもっと良くなったよね、と感じられるような施工ワーキングの結果を出したいなと思います。森を守ることが、私たち人を守ることになるように、またこれからもがんばっていきたいと思います。道路も緑地も今後さらに協力して取り組めるといいですね。

長谷川
ｲﾝｽﾍﾟｸﾀｰ

◇維持管理工事のお知らせ

維持管理工事の状況をお知らせします。

平面図



排水修繕工

散策路の付け替え

工 事 名　市道弥富相生山線第４号防災施設管理工事
工事期間　平成23年6月7日～平成23年9月30日
工事内容　工事区域の維持管理

連絡先
名古屋市天白土木事務所
TEL 052-803-6644　FAX 052-805-1594
整備係長　平手　利彦／担当者　倉田　三恵子
株式会社 河内組
TEL 052-901-3937　FAX 052-901-4126
現場代理人　藤本　光伸

問い合わせ先
名古屋市 緑政土木局 道路建設部 道路建設課内「環境に配慮した道づくり」施工ワーキング事務局
〒460-8508　名古屋市中区三の丸三丁目１番１号
電話：052-972-2873　　FAX：052-972-4168
http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/53-3-7-0-0-0-0-0-0-0.html

この印刷物は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

2011年9月16日発行

「環境に配慮した道づくり」施工ワーキングだより 第55号（案）

施工ワーキングのススメ

●第69回施工ワーキング

平成23年7月10日（日）に第69回施工ワーキングを開催し、27名が参加しました。

今回は、5月末から６月初めにかけて実施したヒメボタル調査の結果を確認し、これまで10年間継続してきた調査について話し合いました。(第54号参照)

また、工事用フェンスの取り替えや移設、排水施設の修繕など維持管理に関する作業の予定や方法を確認しました。

第69回 プログラム

1．前回（68回）の確認
2．ヒメボタル調査の結果確認
3．維持管理工事について
4．学術検証委員会の課題について
5．グループ活動

今年度、一年間かけて学術検証委員会で出された課題について検討していく中で、今回は、施工ワーキング全体で検討すべき課題を取り上げ、話し合いました。

◇ 学術検証委員会の課題について

学術検証委員会より出された課題について、施工ワーキング全体で確認しておく事項、グループで分担して話し合う事項を仕分けしました。今回は、そのうち全体で検討すべき課題について、内容の理解、施工ワーキングで今後取り組む必要の有無、取り組む場合の方法などを話し合いました。

この課題の背景は･･･

施工ワーキングだけではなく、広く意見を聞く必要があるね。

必要なデータは、他の方法でも得られるのでは？

道路が完成する前に手を打てる対策があれば、やっておきたいね。

※全部で23の課題のうち、以下の10項目を全体で話し合う項目としました。

№１．新たな渋滞の発生予測のために、詳細な調査や予測モデルを開発すること
№２．開通後も継続的に調査を実施し、対策を検討すること
№３．誘発交通が発生した時に適正に管理すること
№４．人が自然から享受する様々な恩恵を次世代に伝えるという教育面で利用すること
№９．相生山緑地全体の整備計画と管理方針を策定すること
№11．現地の生物相の生態的な調査を実施すること
№13．相生山緑地全体の生態系回復方法について市民、行政、学識経験者を含めた検討会で合意すること
№19．マイクロシミュレーションを実施すること
№20．開通後必要ならば、地域の合意を得て、周辺生活道路のゾーン規制を実施すること
№22．CO_2排出量を予測するために、詳細な交通需要予測を実施すること